

明和後正夢
五編
中

^ 13

2909

17

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

門へ13
2909
17

浦理明鳥後正夢卷之十四

浦理明鳥後正夢章

江戸

南仙笑楚満人
龍亭鯉丈 合作

廿四回

いづこへ思ひあつともまらまらと縁一室の八幡ら
下野国小名高き所より按むるにこまの武藏野の迹水
まんの類よして地系本の草として登るると遠く望む
或ハ烟のころくまの氷の流るるが如くも見るに

浦理明鳥後正夢

昭和九年
六月二日
贈

青面金剛



青面金剛

青面金剛

六

あしひのよ 全入のあしひ ニサお里さんその仙女香とやら何の

茶 又スガキ 「アヤお里さんおあまこさるねへいぶきのあ

流りゆのてえごよくまぐ茶臼粉のころサコらちやア

お里さんよあそごらつてうら買て付らう中一さあといま

にして顔のおま物やにまびそがらまるとんぞあやア滅よ

奇妙 こま こましく寒く包んと紙があらうとまといと懐て

見る あま 「とましくアア何ごとと顔の茶美顔仙女香一

包に牛乳この茶志の享保五年二十一番の船主伊字丸

このころ唐人と漢偶居の時九山の全盛中近江屋菊

野と称せしは女にさづけし奇代の妙茶とアおまをり

六茶度より書てあるよそいなるうらごらもかつて付て

アアうよ晩めア得らうアうらうらえんが駄面てもえん

みのんても付らちちやアよくアアよもまは移らうら

「アア又うけさせらよ大者早くいふとよんで来るア

「お里さんおまさんおまさんおまさん

「何でも移らおあへん

あしひの...

...

おとろけ



おとろけ

おとろけ
於照

痛
里

